2018年9月26日（水）

電波新聞

日本電計

中国華南 自動車分野中心に事業拡大

半導体分野計測器も売上増へ

日本電計は、自動車分野を重点に計測器のグローバルビジネス拡大に取り組んでいる。中国でも現地法人「電計貿易（上海）」をヘッドクオータに約25カ所に営業拠点を構えて、キメ細かい営業活動を行っている。広東省を中心とした華南地区では自動車、電池、液晶パネルなどの顧客を主な対象に事業の拡大に取り組んでいる。

金　総経理

広東省（広州、深圳、東莞）を中心とした華南地区は、中国現地法人の電計貿易（上海）の分公司として深圳、広州、厦門、東莞、珠海に営業拠点を設けている。

電計貿易（上海）の金玉香華南区域総経理は「自動車、新エネルギー（バッテリ）、液晶パネルを重点分野として売上げの拡大に取り組んでいる。半導体分野も売上げを伸ばしたい。中国は政府主導で電気自動車の普及が進んでいる。例えば深圳市では、バスが電気自動車に代わり、タクシーも年内には全て電気自動車に置き換えられ、当社にとってもビジネスチャンスが拡大している」と述べる。

これまで日系企業を中心に営業活動を行ってきたが、売上げを拡大するため、中国現地企業の開拓を積極的に進めている。

華南地区では、広州のトヨタ、日産、ホンダなど日系メーカーのほか、広州汽車乗用車や長安プジョーシトロエングループ（深圳）、BYD（同）などが生産活動を行っている。

金総経理は「自動車用試験・計測器では、EMC試験や充放電試験のほか、温度、砂じん、風洞、耐候、振動、VOCなど環境試験を行う設備、計測器が多い。エアバッグなど車載部品メーカーもあり、営業のチャンスは多い。日系計測器メーカーが中心だが、一部の自動車メーカーでは欧米製も採用している。中国のVOC規制に伴うセミナーも開催している」と話す。

また、新エネルギーのリチウム電池メーカーも華南地区で生産活動を行っている。寧徳新能源（福建寧徳）、欣旺達電子（深圳）、恵州市徳賽電池（恵州）など中国企業が集積している。

「電池メーカーは充放電、振動、温度、バッテリテスターなどの需要拡大に期待している。中国は新しい分野に進出する企業が多いが、その半面で淘汰（とうた）も速い。電池メーカーでも既に淘汰が始まっている」（金総経理）。

液晶パネルでは華南地区にBOE（福州）、華星光電（深圳）、天馬（厦門、深圳）、TRULY（恵州）、LG（広州）、フォックスコン（深圳、広州）など、中国・台湾の有力パネルメーカーが進出。

これら新規の重点分野に加えて、新たに半導体分野の計測器ビジネス拡大にも取り組んでいる。

金総経理は「既に一部の通信機器メーカーと取引が始まっている。今後は、半導体分野の計測器も売上げを伸ばしたい」と話している。